

備考 二四式防毒面ニ於テ外側視野大ナルハ其交角カ国軍現制品ニ比シ小ナルニ因ル

支那軍 二四式防毒面	国軍現制品九式	防毒面種類区分			
		内側	外側	上側	下側
二〇度	三五度				
六六度	六五度				
四〇度	四二度				
四一度	五〇度				

附表第五 視野比較表

支那軍二四式 防毒面		九式	
行軍後	行軍前	行軍後	平均トス
一九、〇	一七、〇	二八、五	平均トス
五、〇	四、〇	一〇、五	
二人各二回ノ 平均トス			

説明

寫真第一乃至第三

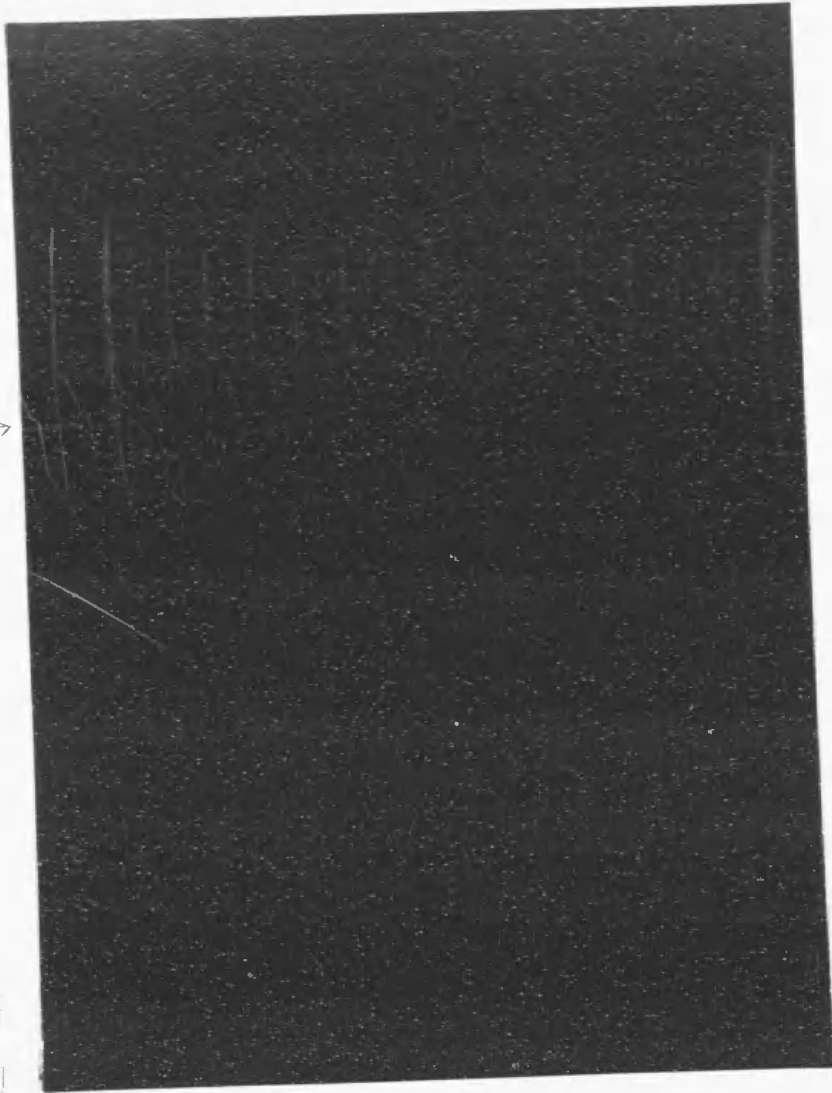
一 寫真第一乃至第三ハ防毒面ノ呼吸圧曲線ヲ示ス。

二本曲線ハ装置内圧ヲ氣導法ニ依リタンス
 一ルヲ以テ廻轉煤煙紙上ニ記録セシメタル
 モノニシテ基線ヨリ上方ハ呼氣下方ハ吸
 氣ニ相当ス

三 時間曲線ハ三秒毎ニ区劃ス
四 呼気壓ノ測定ハ波型ノ最大部ヲ以テス

0272

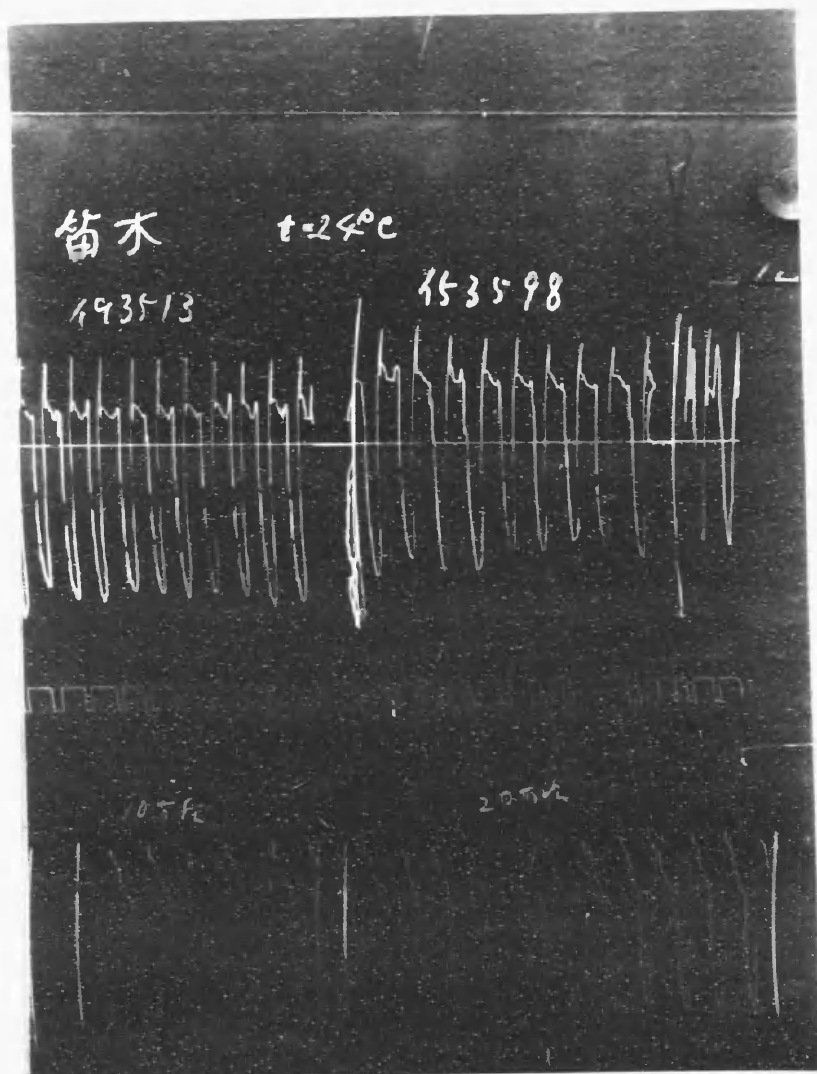
写真第一 九五式防毒面呼吸塵曲線



→

呼吸曲線

0273



0273-2

呼吸圧→
曲線

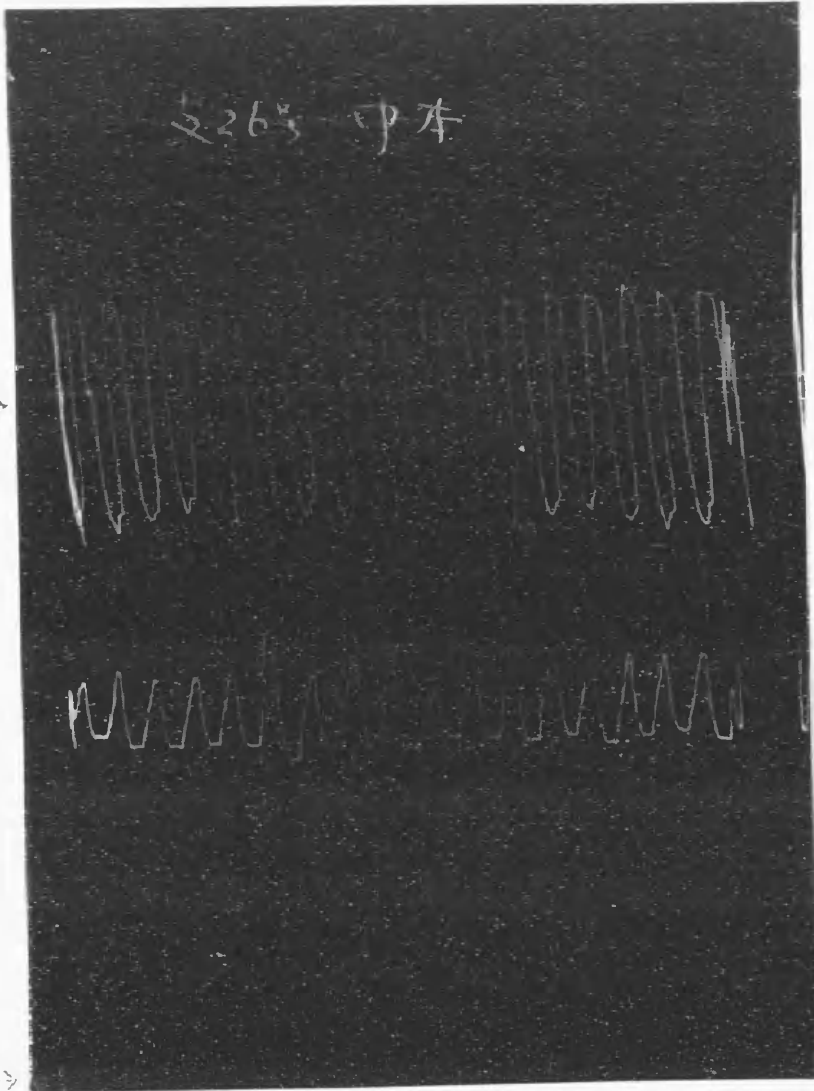
時間→
曲線

0274

支26号 中本

呼吸
→
曲線

時間
→
曲線



写真第三
國産防毒面呼吸
圧曲線

鏡

機務

機務

機務

軍

開

陸軍省 第12號 共四

12.12.27 陸軍省 房官

秘 丁集一野化報第六號

昭和十二年十一月九日 於 湖州

第一野戰化學實驗部要報第七號

一 戰鬥經過ノ概要

十一月六日丁集作命甲第五六號ニ依リ第

一線ト協力シ南京ニ於ケル化學搜索ヲ支ヘ

キ命ヲ受クルヤ主力ヲ以テ直ニ湖州出發シ

月八日夜東善橋ニ到着シ第六師團及第

百十四師團司令部ニ各々連絡將校ヲ派遣シ

緊密ナル連絡ヲ保持ス

(二) 爾後主力ハ第六師團司令部ニ續行シ連

絡將校ヲ第六師團司令部第六師團右翼隊

陸軍省 13.3.8 第133號

付受 12年12月21日 課一參

陸軍省 13.3.8 第492號

陸軍 12.12.27 第12號 戰備課

第一線及第百十四師團司令部ニ派遣シ敵化學
 戰ニ関スル情報ヲ蒐集ラサスト共ニ師團ニ通報
 ニ依リ花岩寺高地等撒毒地域構成ノ疑ハル地
 點ニ對シ化學ヲ搜索ヲ實施シ其結果ヲ逐次第
 一線部隊ニ通報セリ

(三) 十二月十日正午頃第六師團掃蕩隊ト共ニ南
 門ヨリ南京城内ニ突入シ先ツ最モ緊要ナルケ
 リーク井水等ニ對シ化學ヲ搜索ヲ實施シ其結
 果撒毒ナキ旨ヲ標示スルト共ニ適時第一線部
 隊ニ通報シ軍ヲシテ危惧ノ念無カラシメタリ
 爾後テ六日迄化學ヲ搜索ヲ引續キ實施セリ

二 化學 投索ヲ每員施セル箇所

一 軍作戦地境内ニ於ケル各「クリーク」及井水

(二) 金陵兵工廠

(三) 軍政部應用化學研究所

(四) 軍政部學兵隊

(五) 軍政部軍醫署

(六) 軍政部軍官學校

(七) 軍政部

(八) 軍政部陸軍部

(九) 軍政部參謀部

(十) 國立中央大學

(二) 金陵大學

(一) 南京市立病院

(二) 其他陸軍官衙諸學校

三、敵軍化學戰ニ對スル判斷

(一) 敵ハ化學戰ヲ重視シ瓦斯使用ニ關シ一應之準備ヲ為シアリシモ撤毒等ニ任スル化學戰部隊ハ戰ハスシテ南京ヨリ撤退セシヲ以テ今後敵軍カ瓦斯ヲ使用スルノ懸念全クナシトセス然レトモ其瓦斯使用ハ頗ル幼稚ナルモノト判斷ス

(二) 敵ハ瓦斯防護ニ關シ相當之準備ヲナシアルモ之ニ關シ猶多大ノ缺陷ヲ有シアルヲ以テ我軍ノ瓦斯使用ハ極メテ有利ナリ

附記

上鹵獲セシ多種ノ敵軍化學戰資料ニ就テ今後實験調査上詳報ス

0279

課帶連	局長	件名	軍事、整備	
	印帶連			軍子御中 衣糧課
	局長			
	長課			
連帶還付期限		連帶票	古月十日	

参考ノ爲他ノ連帶課名ヲ記入スルモノトス

鞆用被服補塲ニ関スル件

支那軍第四〇三〇号



軍省
12.3
事務課